学級活動（２）　指導案の記入の仕方＜例＞

第○学年　学級活動（２）指導案

令和　　年　　月　日（　）　第　校時

場 所　　　　年　　組　　教　室

授業者 Ｔ１ 教諭

Ｔ２ 栄養教諭

１　題材名　　「　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　」

　　学級活動（２）エ　食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

　　学級活動（２）オ　食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

２　題材設定の理由

　本学級は，男子　　名，女子　名，計　　名の学級である。食事に関するアンケートの結果から，給食は　　名中　　名が好きで，その理由に　　　と　　児童が答えている。

　現代では，食が多様化し，家庭でも個人の嗜好中心の食生活になりがちになるとともに，偏食や生活習慣病の低年齢化などが進んでいる。低学年のこの時期に，ことに気づき，これからも何でも進んで食べようとする態度を育てたいと考え本題材を設定した。

　　本時では，　を知り，ようとする意欲と実践的な態度を育てる。そのために，を用いて興味・関心を高める。また，栄養教諭からの専門的な話も聞くことで，　　いることに意識を広げ，理解を深める。さらに，する工夫をみんなで話し合い、　　の考えを自分に生かせるようにする。家庭での食生活に目を向けさせて，　ことが大切であることをより意識させ，自宅でもようとする意欲を育てたい。

３　『ふくしまっ子食育指針』との関連（例）

|  |  |
| --- | --- |
| 食べる力の要素 | 期待する姿 |
| 食事のリズムをもつ | １日３回の食事のリズムを身に付ける |
|  |  |

４　評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| よりよい生活を築くための知識・技能 | 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 | 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 |
| 日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。 | 日常生活への自己の適応に関する諸課題に気付き、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。 | 自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題に取り組み、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。 |

５　活動計画

|  |  |
| --- | --- |
| 事前 | アンケートにより子どもの　　の傾向を把握する。 |
| 本時 | 学級活動（２）「　　　　　　」 |
| 事後 | 学習後の意識変容を把握する。  家庭と連携を図る。 |

６　本時のねらい

・～するためにはどのようにすればよいだろう

（～する意欲をもたせ、実践することを具体的に決めることができる内容にする）

学級活動（２）の特質

　　○集団思考

　　○意思決定

　　○実践

１　題材名

○年間計画にあるもの

○学級の子どもの問題か

２　題材設定の理由

　＜児童観・生徒観＞

○具体的に題材に即した実態

　○数的に表した具体的な実態

　＜教材観・題材観＞

　○実態と必要感のある題材と

の整合性

○問題解決の必要性があるの

か記入する

＜指導観＞

　○実践させるためにどのよう

に指導するのか記入する

　○本時で、４つの段階小学校

では、「つかむ」「さぐる」

「見つける」「決める」、

どのように指導するのか記

入する。

３　『ふくしまの食育』パンフ

レットの中　Ⅲ発育・発達段

階に応じた望ましい食に関す

る行動指標を見て記入する。

４　育成をめざす資質・能力と

して、１時間ごとに評価規準

を作成するのではなく、学校

で定めた低・中・高学年（中

１～３年）の評価規準を記入

する。

＊「指導と評価の一体化」の

ための学習評価に関する参考

資料【小学校　特別活動】

【中学校　特別活動】参照

５　活動計画

○学習前後の意識変容を把握

する。

○家庭への啓発をするなど連

携を図れるような手立てを

記入する。

６　本時のねらい

　○自分の課題を理解し、解決

するために実践できるよう

なものにする。